

1. 評価報告概要表

評価確定日 平成21年5月8日

【評価実施概要】

事業所番号	2277102188		
法人名	株式会社アイケアサービス		
事業所名	グループホームあいの里篠ヶ瀬		
所在地 (電話番号)	浜松市東区篠ヶ瀬町345	(電話) 053-411-7577	
評価機関名	静岡県社会福祉協議会		
所在地	静岡市葵区駿府町1-70		
訪問調査日	平成21年1月29日		

【情報提供票より】(20年11月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 7 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	14 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 14 人

(2) 建物概要

建物形態	併設 / <u>単独</u>	<u>新築</u> / 改築
建物構造	鉄骨 造り 1階建ての 1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃	45,000~65,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷金	有 (100,000 円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (50,000円)	有りの場合 償却の有無	有 (期間:2年)
食材料費	朝食	300 円	昼食 450 円
	夕食	450 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(11月30日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	2 名	要介護2	5 名		
要介護3	5 名	要介護4	6 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 82.7 歳	最低	68 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	フローラルクリニック・さくら歯科・さくら台病院
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

古民家風の平屋づくりのホームである。事務室は中央に位置し、ガラス越しになっているため、左右両ユニットの居間や前面の玄関・ホールがよく見え、利用者の動きが把握できる。職員は、利用者のできること・できないことを把握し、食事作り等の役割や、楽しみごとを作り、一緒になって利用者を支えている。今回の自己評価は、趣旨を理解した上で、ユニット長を中心に全職員で取り組み、改善に向けての意欲が伺える。また、重度化や終末期ケアに向けた対応方針は、職員の知識の習得と理解、医療的対応、利用者・家族の意向等について十分に話し合い、支援体制を作った。様々な介護サービスを実施している法人の利点を活かしながら、全職員が一丸となって、利用者本位のサービス提供をしているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営推進会議が定期的開催されるようになり、市との情報交換や災害対策の改善に向けて取り組んでいる。また、介護計画は、センター方式を取り入れ、様式を変えることにより、見直しの経過がわかりやすく記録されている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価票の記入は、職員会議等で管理者が説明し、全職員の理解を得た上で、個々に記入し、ユニット長を中心に報告書をまとめることにより、ユニット毎に自己評価票を作成した。職員は自己評価に取り組むことで、ケアの考え方を学び、自己を振り返る良い機会になった。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2~3ヶ月に1回定期的に開催し、利用者家族、自治会関係者、市職員等の参加が得られている。会議を通して、地域の情報が入ってくることにより、利用者の活動の場が広がっている。今後は地域と共同で防災訓練の実施を検討している。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の訪問時に声かけし、利用者の日頃の暮らしぶりを話すことで、家族が意見や要望を話しやすい雰囲気作り心掛けています。意見・要望が出た際は、職員会議で周知・共有化を図っている。また、苦情を職員が共有し、同法人内で速やかに解決を図れる仕組みができています。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>運営推進会議を通じて地域のボランティアと交流したり、自治会行事に誘われるなど、地域との付き合いが増えた。また、近隣住民と散歩中に挨拶を交したり、立ち話をするなど、馴染みの関係づくりに努めている。今後も地域に根ざしたホームとして、更に交流を深めていくことを期待したい。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念として「笑顔が見えるケア」を挙げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝、理念の唱和を行うことで、全職員が理念を共有し、実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事、お祭り、幼稚園の運動会等に参加している。また、ボランティアの受け入れや、散歩の際に近隣の方と会話したり、花や野菜等をいただくなど、地域との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は評価の意義と効果を確認し合っている。ユニット毎で全職員が自己評価を行うことで、各職員がこれまでのケアを振り返り、新たに気づきやヒントを得て、業務について思いを新たにすることができた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2～3ヶ月に1回開催し、利用者家族・自治会関係者・市職員等の参加が得られている。会議を通して、ボランティアの照会を自治会に依頼したり、自治会行事などの地域の情報を知ることができ、利用者の活動の場が広がってきている。	○	今後は、地域包括支援センター職員にも参加を依頼することで、更に充実した会議となることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市主催の連絡協議会や研修会等に出席している。また、必要に応じて、連絡を取り合い情報を得ている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	法人が月1回発行する情報誌に、利用者個々の日常生活におけるコメントを添えたり、行事予定、金銭管理状況等を同封し報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時を通し、気軽に意見や相談できる関係作りに努めている。また、苦情が出た場合は、職員間で共有し、法人内で速やかに解決を図る仕組みができています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動による弊害を理解し、最小限に抑えるよう努めている。離職の2ヶ月前に、利用者へ伝えて、徐々に慣れてもらえるよう配慮している。また、家族には、来所した際に新人職員を紹介している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な新任研修、ユニットリーダー研修等、段階に応じた研修を法人全体で行っている。また、職場内研修も積極的に行っている。	○	外部研修(法人外)への参加を検討されたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム実践者研修、市主催の研修会・講演会に参加し、他ホームの情報を得ている。情報は職員会議等で周知を図っている。	○	今後は、同業者との情報交換会や事例検討会等を開催し、積極的な交流を行い、サービスの質の向上を図っていくことを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居申込みがあれば、管理者とユニット長が自宅を訪問し、家族や利用者にホームについて説明するとともに、利用者の生活歴やできること・できないこと等について情報収集している。利用者によっては、お試し入居やお泊り体験等を利用し、本人が納得した上で利用を開始している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者一人ひとりのできること・できないことを見極め、それぞれが自然に役割を持って、暮らしている姿が見られる。また、副菜の味付け、四季折々の行事の意味、ならわし、作法等について利用者から教えてもらうことも多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との会話や表情から思いの把握に努めている。職員は可能な限り、利用者の意向に沿った生活の実現に向けて、取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の希望や家族の意向、医師の意見等を確認し、管理者・ケアマネージャー・ユニット長が中心となって、一人ひとりに応じた介護計画を作成している。介護計画は全職員で話し合い、共有している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は4ヶ月から6ヶ月の期間で見直しを行っている。計画期間終了後は結果を話し合い、次のステップにつなげている。また、利用者に変化があった際は、その都度関係者と話し合い、家族の意見を聞きながら、計画を作成し、全職員の共有化に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況に合わせ、かかりつけ医の受診、理美容、買い物等の要望に応えられるよう職員間で連携を図り、対応している。また、法人内に各種サポート事業が備わっており、必要に応じ活用することもできる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週で協力医の往診がある。また、かかりつけ医への受診は原則的には家族の付き添いとしているが、家族が同行できない場合は職員が付き添いを行い、家族に受診結果を報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアへの対応については、職員会議で方針の共有化を図り、入居時に利用者や家族へ「重度化や終末期に向けた対応方針」に沿って説明を行い、利用者や家族の希望により対応している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者に対しゆっくり、やさしく、さりげなく尊厳ある言葉で接している。また、個人情報の管理は、戸棚に収納し、カーテンを張ることにより外部から直接ファイルが見られないよう工夫している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースや希望に合わせ、その日の様子を見極めて支援方法を検討している。利用者ができることはしてもらい、散歩、外出、外泊等の支援について柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は、季節の食材を取り入れて、朝・昼・夕食及びおやつを作り、なごやかに会話をしながら、一緒に食事をしている。また、利用者は職員の支援のもとに、食器の片付けやテーブル拭き等を行っており、残存機能の低下につながっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者や家族の希望に沿った入浴支援を行っている。入浴の時間は主に午後2時から4時頃としているが、毎日・一日置き・夜間帯等の入浴希望にも対応している。また、入浴を拒否する利用者には無理強いせず、タイミングを計り言葉をかけて入浴の支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生花、歌、ゲーム、体操、洗濯干し・たたみ、食器洗い等を職員と共に行い、マンネリ化しないよう心がけている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気が良い日の散歩、買い物をはじめ、季節に合わせて、花見・イチゴ狩り・水族館めぐり等、積極的に外出支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠による利用者への弊害を理解し、日中は鍵をかけていない。事務所から玄関は大きなガラス越しになっているため、人の出入りが一目で分かり、利用者への見守りができる環境になっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の防災訓練は利用者、職員が全員参加し、消防署の協力を得て実施している。今後は地域住民の参加や、ホームの広い駐車場を一般住民の避難場所として開放していくことも検討している。	○	運営推進会議において、自治会関係者や民生委員等と話し合い、利用者を災害時要援護者として位置づけ、支援体制を確立させることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は利用者から希望を聞き、柔軟に対応しながら、バランスの良い食事づくりに努めている。食事・水分摂取量を記録し把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関にはベンチが置かれ、職員と一緒に作った鉢植えの草花が咲き、利用者の憩いの場となっている。ホーム内の共有空間は、天窓からの光彩も明るく居心地良い雰囲気となっている。掃除も行き届き、清潔感があり家庭的である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の希望により、畳を敷いたり、馴染みの家具や物品が持ち込まれている。一人ひとりに合った、明るく落ち着いた雰囲気の居室である。		